

学校関係者評価委員会 議事録

開催日時 : 令和 5 年 5 月 24 日 (水) 13 : 30 ~

開催場所 : 日本総合医療専門学校 10 階

開会宣言 : 事務局 増子

委員紹介 : (1) 関連業界等関係者 3 名

株式会社セリアジョブ 代表取締役 黒澤光伸様

全国柔整鍼灸協同組合 東京事務所 所長代理 塚口英治様

MTX ACADEMY 統括ディレクター 木村匡弘様

(2) 卒業生 2 名

日本総合医療専門学校 広報課課長 富岡正享様

日本総合医療専門学校 柔道整復学科 学科長補佐 小林耕平様

(3) 教育に関し知見を有する者 1 名

ガリバーインターナショナル株式会社 平賀修司様

事務局 : 日本総合医療専門学校 校長 齋藤貴司

同校

事務長 増子肇

提示資料確認

一. 学校法人平成医療学園「建学理念」

日本総合医療専門学校 「教育理念」「教育目標・育成人材像」「重点教育目標」

一. 令和 4 年度「日本総合医療専門学校自己点検・評価

一. 令和 4 年度「柔道整復師養成施設自己点検票」

一. 学校法人平成医療学園「寄付行為」

・ 令和 5 年 4 月 福島医療専門学校 医療専門課程 文化・教養専門課程

一. 学校法人平成医療学園「組織規程」

一. 日本総合医療専門学校「学則」令和 5 年 4 月 1 日施行

・ 学校所在地変更 : 荒川区東日暮里 6 丁目 → 荒川区荒川 1 丁目

・ 鍼灸学科開設 : スポーツ・メディカルはり・きゅう I コース 定員 30 名

・ 始業終業時刻 : 9:20 始業時間 ~ → 9:30 始業時間

一. 日本総合医療専門学校「沿革」

・ 2000 年(平成 12 年)4 月 朋友柔道整復専門学校 開校

・ 2020 年(令和 2 年)4 月 学校法人合併し、学校法人平成医療学園に組織編入

・ 2021 年(令和 3 年)4 月 第七代校長 齋藤貴司 就任

・ 2023 年(令和 5 年)4 月

所在地変更 : 荒川区東日暮里(三河島校舎)から荒川区荒川(荒川校舎 1 号館)

鍼灸学科開設 : スポーツ・メディカルはり・きゅう I コース

I. 学校長挨拶

今年度4月より校舎を移転および鍼灸学科新設で新たな学校運営を行っております。また今後につきましては、さらにクラスを増やしていく方向で検討していきたいと思っておりますが、まずは、6月に予定されている東京都の指導調査を終えてから、しっかりと関係官庁と打ち合わせを行い進め、地域に根付く学校づくりをしたいと思っております。本日は、各先生方から、忌憚のないご意見をいただけたらと思っておりますので宜しくお願いいたします。

II. 専修学校の学校評価制度について（上程者：増子）

・専修学校の評価の定義について

「自己評価」、「学校関係者評価」、「第三者評価」と定義します。

- ①自己評価：教職員が、学校の理念・目標に照らし合わせて自らの教育活動について行う。
- ②学校関係者評価：生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う。
- ③第三者評価：学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした、当該学校から独立した第三者が、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について、当該第三者が設定する評価基準に基づき、専門的・客観的視点から行う。

・専修学校の評価の目的について

- ①学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善を行うこと。
- ②生徒・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの提携協力による特色ある専修学校づくりを推進する

III. 審議事項

1. 日本総合医療専門学校自己点検・評価について(上程者：増子) 以下説明

1.教育理念・目的・教育人材像について

「教育理念」については、平成12年4月に開校して以来、一貫しており、その後、「教育目的」「人間力形成」を定め、柔道整復師の育成を行って参りました。令和2年4月1日付の学校法人合併に伴い、本校は、学校法人平成医療学園の設置校となり、一昨年度より同学園「建学理念」「教育理念」「教育目標・育成人材像」並びに「令和4年度重点教育目標」を新たに定めております。理念・目的・育成人材像は、ホームページ、学校案内に適切に明文化して公開しております。育成人材像・目的は、社会のニーズに適合していると考えています。

2.学校運営について

運営方針・中期計画に則り、事業計画を作成し、資料「学校法人平成医療学園寄付行為」「同組織規程」のとおり、理事会、評議委員会が開催され議事録も残され適切に運営を行いました。また、通知・通達項目については、法人本部と連動して、全員に周知しています。各種規程も整備しており、その規程、規則については、平成医療学園のネット環境上で公開され、よりよい組織体制になりつつあると考えています。但し、事業計画を定めているものの方針転換も多い状況ではありました。ただし計画変更については、創意工夫により達成のため自己評価点を上げております。

3.教育活動について

教育レベルは、国家試験合格という目標が明確であり、教育課程は、行政および平成医療学園関連校の意見を反映させながら編成しています。特に、卒業、成績評価基準、指導体制は整っており、校内手続きを遵守し確実に実施しています。

授業評価については、アンケートの代わりとして学生に対する複数回の面談を実施し問題点の洗い出し、改善を実施しています。教育組織体制は、学校長・教務部長・学科長を一新した新体制にて活動した初年度となり適正に運営できたと認識しています。

4.学修成果について

国家試験の合格率は、平均 65.4%に対し、68.4%になりました。令和3年度の合格率が74.2%で前年度を上回ることができませんでした。国家試験の漏洩問題が取り出さされまた、難易度が想定したよりも上回ったこともあります。要因分析に基づき指導方法の見直しの検討が必要と思います。全員合格を目指し、平成グループ合同模試、校内模試、Google フォームを用いた演習問題の取り組みを行っております。就職を希望する学生に対しては、就職説明会開催等により卒業後の就職率は、100%達成しています。卒業生については、現状同窓会が組織化されていないため同窓会組織づくりを検討しております。

5.学生支援について

退学者が高い水準のため、学生に対する意識の変化を早期に把握し、早期の対応を行うために、担任・校長による複数回の個別面談を行いその原因、傾向、指導内容等を記録に残す対応を行っています。また心理面から健康面への不調不安の問題が増えているためその相談にも対応しています。経済面での支援としては、公的奨学金および教育ローンに関する相談を個人レベルで丁寧に行っています。産学連携については、令和4年度より外部臨床実習を実施しております。また、学修成果の把握については、特色ある取組ができておらず今後の課題となっております。

6.教育環境について

令和 4 年度については、三河島校舎から荒川校舎への移転を検討していたため最低限度の修繕にとどめました。ただし、施設、設備、教育備品に関しては、基準は満たしており教育環境は充実していると考えております。移転先の荒川校舎については、東京キャンパス留学生別科の 2 号館への移動が 4 月にずれ込む箇所があり、窓ガラスの破損修理、電子錠扉の修理等ができず早急に整備を実施しているところです。

7.学生の募集と受入れについて

柔道整復学科(定員 30 名)は、早期に充足見込みがたち、入学者は定員に達しました。新設の鍼灸学科(定員 30 名)は、10 月から告知を開始し 9 名受験 8 名の入学にとどまっています。後半の募集活動につきましては、定員充足を目標に社会人向けの Web 広告など鍼灸学科新設を柱に認知活動に努めましたが、募集定員 60 名に対し 39 名となり達成率は 65%に留まりました。

8.財務について

学校の収支は赤字の見込み。財務情報の公開については、ホームページの情報公開に掲載しています。学納金比率の高い財務体質のため、定員充足、退学率の低下が必要と考えております。

9.内部質保証について

学校運営に必要な諸規程は整備されているものの教職員への周知については、今後検討する必要があると思われます。運営自体は、インターネット環境については、担当者退職に伴い、不正アクセスを防ぐためのネット環境整備が遅れているため、対応を検討しています。教育情報につきましては、ホームページに掲載し公開しています。

10.社会貢献・地域貢献について

本校は、地域社会との共存を特に重点として同区内各種団体に対し、同校施設開放を実施し、本校教育にご理解を頂けるよう準備をしておりましたが、新型コロナウイルスの蔓延防止のため、施設開放にはいたりませんでした。今後は、地域および卒業生についての施設開放の実施（図書室、柔道場等）を検討していきます。

以下、各委員からのご意見 敬称省略

全体的に改善されていていい方法に向かっていると思う。

高い合格率と定員充足が、学校評価として外部にでていくので最終的に改善をどうしているかという指針が、今後の学校の発展につながるのではないかと思います。(平賀)

学校運営やガバナンスはまったく問題なくしっかりやられていると思う。

収支の関係上、定員充足については、学校を選んでもらう理由を明確にすることが重要。

定員充足が達成できないのは起因する内容として

自己評価において、特色ある取り組みを行っているか にいい評価がつけられないことがあげられる。けっしてユニークであればいいというわけではなく、どこかと差別化できる、この分野にはたけている、というものをしっかり作り謳っていくことが、まずひとつ具体的取り組みになると思う。

自分たちの特徴、魅力が何なのか、ということを確認にする。そしてそれが、学校理念と経営理念とリンクしながら運営化できれば武器になる。(塚口)

学生にとっての魅力として国家資格を取るだけでなく将来につながる施策として

キャリア教育について具体的な内容を教えていただきたい。(塚口)

職業教育の授業を行い、外部から講師を招聘し実施した。

学校としては、ふみこんだ職業教育として

どんな柔整師になりたいか、何のために。といったところまでを学習している。

退学率を減少させるために、モチベーションを維持するため、JOB 関係の講習会と企業説明会をやっているところです。また、10年サポート制度(卒後の教育を充実させていきたい)(卒業後も学校に戻ってきてもらいたい。学校の教育資源を活用しつながりを持ち続けてもらいたい)を行いたいと思っています。人生そのものを預かっている責任として、全員の卒業を目指していく。柔道整復師、鍼灸師になるならないは別としても、人の役に立つ仕事についてもらいたいと思っています。(齋藤)

それが、学校の魅力になるかと思います。(塚口)

鍼灸学科新設ができたことは、素晴らしいことだと思います。

ご努力に関して感謝申し上げます。

中途退学者については、どの学校でも大きな問題になっていますが、日本総合での具体的な

対応があればお教えいただきたい。(黒澤)

学生との会話、対話がない。また学生が多様化しているのでカウンセリング制度を取り入れたいと思っています。また、自宅が遠距離の学生が多いため、保護者と密に話せる機会も少ないので、こちら側から出向いてのタウンミーティングを実施していきたいと思っています。保護者には、3年間学校の方針を言い続けたいといけないう感じがあります。

(齋藤)

定員充足させている学校では、OB会の充実に力をいれている学校が多い。

日本総合さんのOB会についての考えを確認したい。(黒澤)

卒業生との密の対応は必要である。活躍している卒業生もかなりいるのは把握している。

(齋藤)

先をつないでいくという意味でもぜひ達成していただきたい。(塚口)

OB会を作るうえには、学校の応援が必要。(お膳立ては必要)

残念ながら企業のパンフレットでも、日本総合を出身と記載されている方はどなたもいない。

(齋藤)

企業説明会のときに、できるだけOBをつれてきてほしいという依頼をしている。

企業の採用担当者と学校OBの同席をめざす傾向になっている。

OB会は、意味ある会を重ねていく必要があるのでは。(黒澤)

大事なのは、OB会の運営するためのコンテンツが重要。運営するときのコンテンツを明確してやっていくことが重要であるのでは。まずは、集える場所をつくるということという腰を据えてやっていくと良いのではないのでしょうか。(塚口)

生徒募集に関して、特に他校の鍼灸学科の募集に関して、

なに押しが多いのか(何を売りにしているのか)を確認したい。小林

鍼灸学科で定員充足している学校は、スポーツトレーナー押しでやっている学校が多い。

鍼灸に関しては、美容鍼灸、スポーツ鍼灸をきっかけにまず関心をもってもらうのがいいのでは。鍼灸に関しては、治療が実費ということもありあまり問題となるトラブルもない。

教育実践給付金を軸にして集めている学校もある。定員の2倍近くの応募がある。(黒澤)

学生募集のターゲットとしては、常磐線沿線(茨城)をメインとしている。

常磐線沿線(茨城)で柔道整復と鍼灸がそろっている学校が少ない。鍼灸希望者が東京中心部へ流れてしまっているのを受け皿として学生を集めていけたらと思います。入学の動機付

けをもってもら。オープンキャンパスの時にしっかり打ち出して自分が選んだ学校が間違えなかったということにつながらないと中途退学も少なくなる。 (黒澤)
教育の裏付けをしっかりとることが大切。自分がめざすべきものの裏付けを本人達に理解させることが必要と思います。(齋藤)

業界説明会の開催時期について

全体の知識業界共有を早い時期で行う必要があるのではないか。(平賀)
情報発信の機会をいただければ、早い時期からサポートをしていきたい。(塚口)

柔道整復師は介護分野に相性がいいと思っていますが、日整は関連性がない。全柔協は、そのような関連性(サポート)はどのようになっていますか。小林
全柔協も組合としては色濃くはやっていません。但し、他の連合会では、行動内容に必ず介護分野はあります。(塚口)

他にもご意見、情報提供を多く頂戴いたしましたが、今回の自己点検に関する内容以外につきましては、議事録から割愛させていただきました。(増子)

閉会宣言：事務局増子：

本校自己評価に基づき各委員の皆様より、其々のお立場で、ご意見ご評価を頂き本校運営に関し更に課題を見出すことができました。

尚、本会の評価を基に近々の学校関係者による評価結果をまとめご報告申し上げます。

以上